

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン キョウトイクエイカン 学校法人 京都育英館								
フリガナ大学の名称		キョウトカンゴダイガクダイガクイン 京都看護大学大学院 (Kyoto College of Nursing Graduate School)								
大学本部の位置		京都府京都市中京区壬生東高田町1番21								
大学の目的		本学は、超高齢・少子社会を迎えた我が国において、医療技術の高度化と社会ニーズの多様化に対応する専門的な学術理論及びその応用を研究教授し、高度の知識・技術・医療倫理、そして豊かな人間性を身につけ幅広い教養と国際的な視野をそなえた専門的人材を養成し、保健・医療・福祉の発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的		本学看護学研究科博士課程では、グローバルで豊かな学識をもち、独創的に自立して研究活動を行い、看護の智と実践を創造することにより、地域の人々の健康・生活・環境を支援的に開発し、看護学の発展を推進する教育研究者の育成をめざす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Nursing Science] 計	3年	3人	—人	9人	博士 (看護学) 【Doctor of Philosophy in Nursing】	令和6年4月 第1年次	京都府京都市中京区壬生東高田超1番21		
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)		令和6年4月の看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程に課程変更(届出)する。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	13科目		13単位		
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	分設	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	教授	准教授	講師	助教	計	助手		
		計	11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
	既設	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	10 (10)	8 (8)	0 (0)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)	
		計	10 (10)	8 (8)	0 (0)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)	
合計		15 (15)	8 (8)	0 (0)	— (—)	23 (23)	— (—)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種			専任	兼任		計			
	事務職員			16 (16)	0 (0)		16 (16)			
	技術職員			0 (0)	0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員			1 (1)	0 (0)		1 (1)			
	その他の職員			0 (0)	3 (3)		0 (0)			
計			17 (17)	3 (3)		20 (20)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用期間：31年 借用面積： 8911.77㎡				
	校舎敷地	8,700.06㎡	— ㎡	— ㎡	8,700.06㎡					
	運動場用地	211.71㎡	— ㎡	— ㎡	211.71㎡					
	小 計	8,911.77㎡	— ㎡	— ㎡	8,911.77㎡					
	そ の 他	— ㎡	— ㎡	— ㎡	— ㎡					
	合 計	8,911.77㎡	— ㎡	— ㎡	8,911.77㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		6,290.90 (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	6,290.90㎡ (— ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	7 室	9 室	4 室	1 室 (補助職員一人)	0 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の数		
	看護学研究科	43,800 [950] (42,339 [914])	1,915 [10] (1,715 [9])	1,700 [2] (1,549 [1])	1,000 (933)	1,900 (1,823)	50 (50)			
	計	43,800 [950] (42,339 [914])	1,915 [10] (1,715 [9])	1,700 [2] (1,549 [1])	1,000 (933)	1,900 (1,823)	50 (50)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		268.35㎡		80	38,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		359.15㎡		—						
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科全体 (図書購入費については、 電子ジャーナル経費を含む)
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	2,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	700千円	500千円	500千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 京都看護大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.07	平成26年度	京都府京都市中京区 壬生東高田町1-21	
	大 学 の 名 称 京都看護大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士(看護学)	1.07	平成30年度	京都府京都市中京区 壬生東高田町1-21	
	大 学 の 名 称 北洋大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国際文化学部 キャリア創造学科	4	75	—	300	学士(国際文化学)	0.45	平成30年度	北海道苫小牧市錦 西町3丁目2番1号	
	附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻(D))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護教育特講	1前		1		○			2						オムニバス
	量的看護研究法	1前	1			○			1						
	質的看護研究法	1前	1			○			1						
	看護概念・理論構築特講	1後		1		○			2					兼1	オムニバス
	ケアの本質と倫理特講	1後	1			○			2					兼1	オムニバス
	英語論文読解と論文作成法	1通		2		○			3						
小計(6科目)		—	3	4		—			4	0	0	0	0	兼2	—
専門科目	看護教育実践特講	1通		2		○			5	1					オムニバス
	看護管理特講	1通		2		○			2						オムニバス
	広域・地域保健特講	1通		2		○			3	1					オムニバス
	国際・災害看護特講	1通		2		○			2						オムニバス
小計(4科目)		—		8		—			11	2	0	0	0	兼0	—
研究科目	看護学特別研究Ⅰ	1通	2				○		11	1					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				○		11	1					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				○		11	1					
小計(3科目)		—	6			—			11	1	0	0	0	兼0	—
合計(13科目)		—	9	12		—			11	1	0	0	0	兼2	—
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野			看護学専攻									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
本博士課程に3年以上在籍し、共通科目から必修3単位を含む5単位以上、専門科目から2単位以上、研究科目6単位の合計13単位以上を修得し、かつ、博士論文審査および最終試験に合格すること。						1学年の学期区分				2期					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻修士課程修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科目	特別研究	2通	8				○		10	8				兼0	
	小計(1科目)	—	8				—		10	8	0	0	0	兼0	—
共通科目	看護研究特論	1前	2			○			2	1				兼1	オムニバス
	看護研究方法	1前	2			○			2	2				兼1	オムニバス
	看護倫理特論	1前	2			○			1	1				兼1	オムニバス
	看護理論	1前		2		○			1					兼1	オムニバス
	看護管理論	1後		2		○								兼1	オムニバス
	看護政策論	1後		2		○				1				兼1	オムニバス
	地域包括ケアシステム論	1前	2			○			2	1				兼1	オムニバス
	医療コミュニケーション特論	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
	国際・災害看護特論	1後		2		○			4					兼1	オムニバス
小計(9科目)	—	2	5			—		10	4	0	0	0	兼4	—	
専門科目	看護の智探究総論	1前	2			○			4	3				兼0	オムニバス
	看護マネジメント特論	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
	看護教育学特論	1前		2		○			1						
	クリティカルケア特論	1前		2		○			1						
	臨床ナラティブ特論	1後		2		○			1						
	エンドオブライフケア特論	1前		2		○				1					
	看護リフレクション特論	1前		2		○				1					
	がん患者・家族看護特論	1後		2		○				1					
	成熟期看護特論	1後		2		○			1						
	看護の智探究課題演習	1後	2				○		10						
小計(9科目)	—							10	3	0	0	0	兼1	—	

専 門 科 目	地域生活支援探究領域	地域生活支援探究総論	1前	2		○		4	2							オムニバス	
		精神地域生活支援特論	1前		2		○		0	1							
		母子地域生活特論	1前		2		○		1								
		高齢者地域生活支援特論	1後		2		○		1								
		公衆衛生看護実践特論	1後		2		○		1	2							オムニバス
		在宅看護特論	1後		2		○		1	1							オムニバス
		地域生活支援探究課題演習	1後	2				○	4	5							
		小計(8科目)	—	4	10				4	5	0	0	0	兼0	—		
	保健師コース	公衆衛生看護学特論	1前	2			○		1							兼1	オムニバス
		健康教育・地区組織育成特論	1後	2			○		1	1							オムニバス
		公衆衛生看護管理論	1前	2			○		1								オムニバス
		学校保健論・産業保健論	1後	2			○			1					兼1		オムニバス
		公衆衛生看護活動特論Ⅰ	1前	2			○			1							オムニバス
		公衆衛生看護活動特論Ⅱ	1前	2			○		1								
		公衆衛生看護活動演習Ⅰ	1前	2				○		1							
		公衆衛生看護活動演習Ⅱ	1前	2				○		1							
		保健統計学	1後	2			○									兼1	
		疫学	1後	2			○									兼1	
		保健医療福祉行政システム論	1前	2			○			1							
		保健医療福祉行政システム論演習	1後	2				○		1							
公衆衛生看護学実習Ⅰ	1通	1				○	1	1							オムニバス		
公衆衛生看護学実習Ⅱ-a	1前	4				○	1	1							オムニバス		
公衆衛生看護学実習Ⅱ-b	2前	2				○	1	1							オムニバス		
公衆衛生看護学実習Ⅲ	2前	3				○	1	1							オムニバス		
小計(16科目)	—	34				—	1	2	0	0	0	兼3	—				
合計(39科目)		—	56	16		—	11	8	0	0	0	兼8	—				
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			看護学専攻									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
<p>【看護の智探究領域】 共通科目必修8単位・選択科目6単位以上の計14単位以上、専門科目必修4単位・特論4単位を含め8単位以上、特別研究8単位、計30単位以上を修得し、且つ修士論文を提出して、審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>【地域生活支援探究領域】 共通科目必修8単位・選択科目6単位以上の計14単位以上、専門科目必修4単位・特論4単位を含め8単位以上、特別研究8単位、計30単位以上を修得し、且つ修士論文を提出して、審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>【地域生活支援探究領域保健師コース】 共通科目必修8単位・選択科目6単位以上の計14単位以上、専門科目「地域生活支援探究総論」2単位と「地域生活支援探究課題演習」2単位、「公衆衛生看護実践特論」2単位、選択特論2単位を含め8単位以上、特別研究8単位、計30単位以上を修得し、さらに保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める所定の31単位を含む36単位(うち2単位は「公衆衛生看護実践特論」)を修得し、且つ修士論文を提出して、審査及び最終試験に合格すること。</p>							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学修の基盤	基礎ゼミ1(主体的学修の基礎)	1前	1				○			4	5	2	2		
	基礎ゼミ2(主体的学修の展開)	1後	1				○			4	5	2	2		
	中級ゼミ1(科学的思考の基礎)	2前	1				○			4	5	2	2		
	中級ゼミ2(科学的思考の展開)	2後	1				○			4	5	2	2		
	課題探求ゼミ1(研究の基礎)	3前	1				○			4	5	2	2		
	課題探求ゼミ2(研究課題の明確化)	3後	1				○			4	5	2	2		
	課題探求ゼミ3(卒業研究)	4通	3				○			4	5	2	2		
小計(7科目)			9	0	0		—								
人間	ライフスパンと人間発達	1前	1			○			1						
	生命の不思議	1前		1		○								兼1	
	生命哲学	1前		1		○								兼1	
	臨床人間学	1前		1		○								兼1	
	文学にみる生老病死	1前		1		○								兼1	
	教育論	4前		1		○								兼1	
	教育方法論	4前		1		○								兼1	
	教科教育法	4後		1		○								兼1	
	生涯学習論	4後		1		○								兼1	
	死生学	4後		1		○								兼1	
	基礎英語	1前		2		○								兼1	
	中級英語	1後		2		○								兼1	
	上級英語	4前		2		○								兼1	
	基礎中国語	1前		2		○								兼1	
	中級中国語	2前		2		○								兼1	
	上級中国語	2後		2		○								兼1	
	基礎フランス語	2前		2		○								兼1	
	中級フランス語	2後		2		○								兼1	
	医学看護英語語彙	4前		2		○								兼1	
	人間と生活行動1(コミュニケーションすること)	1前	1			○			1	1	1				オムニバス
	人間と生活行動2(生命を支えること)	1後	3			○			1	3	2				オムニバス
	人間と生活行動3(生活を創り出すこと)	1後	3			○			1	2	2				オムニバス
	人間と生活行動4(生命を維持すること)	2前	3			○			1	3	1				オムニバス
	人間と生活行動5(社会とかかわること)	2前	2			○			1	2					オムニバス
	人間と生活行動6(生まれること・死にゆくこと前)	2後	1			○			1		1				オムニバス
	人間と生活行動7(生まれること・死にゆくこと後)	2後	1			○				2					オムニバス
小計(26科目)		—	15	27	0		—								
環境	環境論	1前	1			○								兼1	
	微生物学	1前	1			○								兼1	
	薬理学	1前	1			○								兼1	
	社会学	1前	1			○			1						
	現代家族論	1前	1			○			1						
	京都の文化とくらし	1前		1		○								兼1	
	情報リテラシー	1前	1			○								兼1	
	公衆衛生学	1前	1			○				1					
	保健統計学入門	1前	1			○			1						
	保健統計学	3後	1			○				1				兼1	
	関係法規	4前	1			○						1			
	法からみる医療	4前		1		○								兼1	
	経済からみる医療	4後		1		○								兼3	
	生化学	1前	1			○								兼1	
	病理学	1前	1			○								兼1	
	クリティカルシンキング	1前		1		○						1			
人間関係の心理学	1後		1		○								兼1		
臨床心理学	2前		1		○								兼1		
小計(26科目)		—	12	6	0		—								

固有の価値	看護学原論	1前	2			○			1												
	医療・看護倫理	1後	1			○			1	1											
	臨床推論	2前	1			○			1												
	看護過程論1（看護過程の展開）	2前	1			○			1												
	看護過程論2（看護診断）	2前	1			○			1	1											
	看護過程論演習	2後	2				○		1	1	1									共同	
	看護キャリア開発論	3前		1			○		1	1											
	ケアリングコミュニケーション	3前	1				○		2											オムニバス	
	看護リフレクション	3後		1			○		1	1											
	臨床実践と看護理論	3後	1				○		1												
	課題探求	3後	1				○		2											オムニバス	
	臨床判断	4前	1				○		1												
	補完代替療法	4後		1			○		1												
	管理	看護管理経営論	4前	1			○		1												
		看護政策論	4前	1			○		1												兼1
		医療安全	4後	1			○		1												
広域	地域包括ケア論	1前	1			○		2												オムニバス	
	地域包括ケア論演習	1後	1				○	1	1	1										共同	
	国際看護論	2後	1				○													オムニバス	
	国際看護論実習	2後		1				2												共同	
	家族看護学	3前	1				○	1												オムニバス	
	災害看護論	3前	1				○	1	1											オムニバス	
	公衆衛生看護学	3後	1				○	1	1											オムニバス	
健康・看護	生活行動逸脱看護1（コミュニケーションすること）	1前	1				○			1										オムニバス	
	生活行動逸脱看護2（生命を支えること）	1後	2				○	1	1	2										オムニバス	
	生活行動逸脱看護3（生活を創り出すこと）	1後	2				○	1	1	2										オムニバス	
	生活行動逸脱看護4（生命を維持すること）	2前	2				○		3	1										オムニバス	
	生活行動逸脱看護5（社会とかかわること）	2前	1				○	1	1											オムニバス	
	生活行動逸脱看護6（生まれること・死にゆくこと前）	2後	2				○	2		1										オムニバス	
	生活行動逸脱看護7（生まれること・死にゆくこと後）	2後	1				○		2											オムニバス	
	生活行動看護演習1（コミュニケーションすること）	1前	1					○	1		2									共同	
	生活行動看護演習2（生命を支えること）	1後	4					○	1	1	1	2								オムニバス	
	生活行動看護演習3（生活を創り出すこと）	1後	4					○	1	1	1	2								オムニバス	
	生活行動看護演習4（生命を維持すること）	2前	4					○	1	2	2									オムニバス	
	生活行動看護演習5（社会とかかわること）	2後	2					○	2		2									オムニバス	
	生活行動看護演習6（生まれること・死にゆくこと前）	2後	2					○			1	2								オムニバス	
	生活行動看護演習7（生まれること・死にゆくこと後）	2後	2					○	1	1	2									オムニバス	
	生活行動看護総合演習	2後	2					○	1	1	2									共同	
	統合演習	4後	2					○	1	2	2									共同	
	人間のライフスパンと生活行動実習1（人々の健康ニーズ）	1前	1					○	1		2										
	人間のライフスパンと生活行動実習2（周産期・養育期にある人・家族への看護）	3通	2					○		1	1	2									
	地域包括ケア実習1（地域でくらす人々と包括ケアシステム）	1後	1					○		1	1	2									
	地域包括ケア実習2（ケアニーズをもつ人々と地域包括ケアシステム）	1後	1					○	1		1	2									
	地域包括ケア実習3（回復期）	4前	4					○	2	1	2										
	生活行動看護実習1（環境と生活行動）	2前	1					○		1	1	2									
	生活行動看護実習2（看護過程）	2後	2					○	1	1	1	2									
	生活行動看護実習3（成熟期）	3通	4					○	2	2	1	2									
	生活行動看護実習3（育成期）	3通	2					○		1	2	2									
	生活行動看護実習3（こころ）	3通	1					○		1	1	2									
	生活行動看護実習4（終末期）	3後	2					○	1	1	1	2									
総合実習	4前	2					○	1	3	3	2										
小計（51科目）	—	78	4	0			—														
合計（110科目）		—					—	12	10	3	5	0									
学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野		保健衛生関係																	
卒業要件及び履修方法										授業期間等											
必修科目24単位、専門基礎科目の選択科目から22単位、専門応用科目の選択科目から18単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））										1学年の学期区分					2学期						
										1学期の授業期間					15週						
										1時限の授業時間					90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻(D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護教育特講	<p>(概要) 看護基礎教育と生涯継続教育という視点から、看護教育に関する諸理論および知識と方法論を探究し、看護ケアの質を高める看護教育に必要なトランスフォーメーションについて考究する。また、社会の変化に柔軟に対応する教育活動の必要性を視野におき、教育実践のなかでのティーチング・ラーニング活動における理論と実践的アプローチについて国内外の研究の動向を概観し、効果的な学習活動の課題解決方略について考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (4 津波古 澄子/5回) 看護基礎教育制度の変遷と現状を概観し、看護教育の課題について討議する。また、国内外の研究の動向を概観・検討し、看護教育実践におけるティーチング・ラーニング活動に関連する理論と実践的アプローチの知見をもとに、看護教育に必要なトランスフォーメーションの方向性を探究する。</p> <p>(9 宮林 郁子/3回) 国内外の看護教育に関する諸理論を概観するとともに看護職者の生涯継続教育の視点から、看護基礎教育制度と看護継続教育制度のあり方を考察する。</p>	オムニバス方式
	量的看護研究法	看護研究に必要な量的研究法、とくに統計学を中心としてその基礎を理解し、エビデンスとなり得る研究成果をもたらすような研究計画書を作成し、得られたデータを適切に統計学的に解析し、看護学に資することができる人材を育成する。	
	質的看護研究法	看護研究における質的研究方法の様々なアプローチの違いを哲学的基盤、方法論、実際の看護研究への適用から理解する。データ産出方法、分析、厳密性の確保、データ解釈を理解した上で、受講生の専攻する看護学領域における研究の問いを明らかにする。	
	看護概念・理論構築特講	<p>(概要) 看護現象を説明する枠組みとしての諸看護概念・理論をとりあげ、看護の概念・理論の構築の基盤となる推論プロセスに注目する。とりわけ、類似性に基づく知の階層および推論レベルについての学びを通して、理論構築のプロセスを教授する。また、ロイ適応看護理論に焦点をあて、看護学の中心概念および中範囲理論の構築プロセスを通して、看護の実践知を基盤にした看護理論について考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (4 津波古 澄子/4回) 看護現象を説明する主な看護概念・理論をとりあげ、理論を構築する推論プロセスに焦点をあてる。また、ロイ適応看護理論を活用した中範囲理論のプロセスを取り上げる。</p> <p>(9 宮林 郁子/2回) 看護ケアの臨床知についてベナー看護論を通して臨床把握と探求、及び臨床における先見性のより広い概念について教授する。</p> <p>(15 楠見 孝/2回) 類似性に基づく知の階層および推論レベルについての学びを通して、理論の構築のプロセスを教授する。さらに、クリティカルシンキングと熟達化の理論を紹介し、クリティカルシンキングが看護の実践知の獲得を支えることについて考究する。</p>	オムニバス方式

	<p>ケアの本質と倫理特講</p>	<p>(概要) 実践の科学として、看護はウェルビーイングから病にある人々、そして死に立ち会う人々のケアを担うだけでなく、すべての場、すべての対象におよぶ。ケアの多様性の観点から、文献や事例をとおしして、“ケアすることの意味”を再考し、看護・医療・教育をつなぐケアの倫理について考究する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (5 武井 麻子／4回) 文献を通して、ケアの人間関係のダイナミクスを学び、自ら経験した事例について何が起こっていたかをディスカッションを通して振り返る。</p> <p>(9 宮林 郁子／2回) 対象者と家族へのケアリングの事例をとおして倫理的推論と臨床推論がどのように関連しているのかを考察する。</p> <p>(14 平 英美／2回) 何が倫理的であるかは最終的にはケアを受ける患者の判断に委ねなければならないという視点から、実践記録を素材にしながら、患者がケアやケア者をどのように解釈し、評価しているのかを考察する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>共通科目</p>	<p>英語論文読解と論文作成法</p>	<p>(概要) 看護教育実践に関する英語論文を批判的に抄読し、どのようにそれらの知見を研究に活かすかを討議する。文献テーマは学生の選択する関心テーマ文献と関連するモデル文献とをとりあげて、研究目的（目的、リサーチ・クエスチョン、仮説）、理論的枠組み（コンセプト、思考の流れ）、研究手法、結果（データの意味と適用、限界）などを論考する。また、英語論文の作成の基本を紹介し指導する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (4 津波古 澄子／8回) 看護教育に関連する英語論文を研究に活かすクリティークの仕方を探究し、リサーチクエスチョンの立て方や研究思考の流れを明確にするプロセスの中で、クリティカルシンキングやリサーチマインドを育めるように指導する。</p> <p>(6 高木 廣文／5回) 英語を母語としない看護職者が英語論文を書くにあたって、言葉の壁を乗り越えて、読者に刺激とひらめきを与えるような論文を英語で書くための支援を行い、国際的に活動できる看護分野での教育研究者を育成する。</p> <p>(9 宮林 郁子／2回) 英語論文を科学的に構成するステップを押さえながら構造化抄録を書くためのキーポイントを理解することを目指す。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 科 目</p>	<p>看護教育実践特 講</p>	<p>(概要) 看護教育実践について多方面の視野から捉え、看護教育の現状と課題を検討し、教育実践の向上に向けた課題解決の方法を考究する。また、クリティカルケア看護、看護教育、高齢者看護、精神看護、看護基礎教育および卒後教育の観点から看護教育実践について討議する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 田口 豊恵／3回) クリティカルケア看護に関する現状と課題を検討し、主要概念と理論およびサーカディアンリズムの調整に向けた補完代替療法を用いた教育実践の向上に向けた問題解決方法について考究する。</p> <p>(4 津波古 澄子／3回) 看護教育の現状と課題を検討し、学生の批判的思考の育成への教育的支援の課題の解決にむけて、国内外の文献を通して教育トランスフォーメーションを考察する。</p> <p>(5 武井 麻子／3回) 文献をもとに、教育における指導関係のダイナミクスを精神分析的視点から理解する方法を学び、自らの教育実践を振り返り分析・考察する。</p> <p>(9 宮林 郁子／2回) 国内外の文献から看護学基礎教育および卒後教育におけるデリゲーション能力の育成を中心にその現状と課題を明らかにして、課題解決の方略についてディスカッションを行う。</p> <p>(10 井上 深幸／2回) 高齢者の健康生活に関する現状と課題を検討し、課題解決の方法を考究する。また、看護・保健・福祉の観点から地域で暮らす高齢者の健康教育と看護教育実践について論じる。</p> <p>(1 宇野 真由美／2回) 日本文化を背景とした人間関係と患者・看護師間のコンフリクトについて考察をする。臨床経験が少ない看護師の思考パターンに基づき、コンフリクトが脅威となることを明確化し、その解決にむけたゲーミフィケーションを用いた臨床教育法の有用性に関して討議する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>看護管理特講</p>	<p>(概要) 社会経済環境の変化と医療・看護に関わる政策・行政の動向、および、看護サービスを効果的・効率的に提供する上で適用可能な管理に関わる理論について、講義とディスカッションを通して学び、看護管理上の問題とそれに対処するための方策を探究する。また、質の高い看護サービス提供に求められる看護職員の人的資源管理について、キャリアアップ、コンサルテーション、リーダーシップ等の観点から理論と方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (1 菅田 勝也／8回) 看護をとりまく環境の変化を理解し、看護サービス提供システムの改善や変革に適用できる管理理論を学修し、関連する研究論文の探索とクリティークを通して、看護管理上の問題解決について研究するための素養を身につける。</p> <p>(9 宮林 郁子／7回) 質の高い看護サービスを提供するために求められるものとして、リーダーシップ、エビデンスに基づく実践、コンサルテーション、倫理的実践、キャリア等重要な看護職の人的管理について組織的、政策的課題について関連する文献及び自己の事例を通してクリティークする。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専門科目	<p>広域・地域保健特講</p>	<p>(概要) 国際保健医療および地域保健における実際の活動の展開と研究実践について理解し探究する。すなわち、国際および地域保健、医療、看護などの諸問題を、当該国・地域の歴史、政治、経済および文化・社会的背景を踏まえ、多面的に把握し、問題分析し、問題の解決に至る研究上のさまざまなアプローチ法について理解し探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (6 高木 廣文／4回) 国際保健医療に必要な日本や国際機関の開発技術協力、また国際社会における保健医療職の役割、そして問題解決のための研究方法論の概要、とくに疫学的方法論と国際保健学との関係などについて概説する。</p> <p>(7 波多野 浩道／4回) 地域保健におけるへき地保健医療計画及び島嶼看護学理論の知見を踏まえ、島嶼におけるルーラルナーシング・モデルの開発を念頭に、島嶼看護学研究について概観する。扱うテーマは、島嶼保健医療システムと看護職の役割形成、島嶼住民のヘルスリテラシーと素人参照システム、ソーシャル・キャピタルと参加型研究について考究する。</p> <p>(11 滝澤 寛子／4回) 個人・家族の健康づくりから地域の健康づくりを推進する地域保健活動、特に、地域づくりを目指す住民組織の育成と活動支援方法に関する理論や概念を学び、個人・家族から地域全体の健康レベル向上を目指す看護について教育研究の視点から探究する。</p> <p>(13 河田 志帆／3回) ライフステージの視点から住民の健康づくりを推進する地域保健活動に関する評価方法や介入方法、とりわけ個人や集団の保健行動や支援方法に関する理論や概念を学び、地域全体の健康レベル向上を目指す看護について教育研究の視点から探究する。</p>	オムニバス方式
	<p>国際・災害看護特講</p>	<p>(概要) 国際看護学や国内外における災害看護学の動向とその課題を探究していく中で、自らの研究課題を明確にし、その主要概念に関連する理論等の分析を行う能力を養う。授業展開はゼミ形式を主とし、院生自身がプレゼンテーションした内容に基づいてディスカッションを中心に行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (3 小原 真理子／8回) 災害看護を取り巻く歴史的経緯と看護活動の実際をふまえながら、災害看護に必要な諸概念、枠組み、理論等、そして活動上重要とされる事項として危機管理や健康危機管理について教授する。</p> <p>(8 磯邊 厚子／7回) グローバルヘルスの課題と、現地の人々の視点に立った課題解決の方法を考究する。とりわけ、人口、感染症、貧困、健康格差や高齢社会などのグローバルイシューに対し、疫学的、文化人類学的、政治・経済学的要因等をふまえて、教育研究の視点から課題解決に必要な研究アプローチについて考察する。</p>	オムニバス方式

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究科目</p>	<p>看護学特別研究 I</p>	<p>(概要) 学生のこれまでの研究の取り組みを踏まえて研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できるように教育指導する。なお、研究計画作成にあたり文献の批判的検討をおおしてテーマに関連する研究課題を明確にするために文献レビューあるいは概念分析をおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、看護研究倫理に基づく研究方法について、その妥当性、信頼性、一貫性を多面的に検討する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理の現状について、先行研究や公共機関等から発せられている情報を俯瞰することによって幅広い知識を修得してリサーチクエストを導き出し、仮説を設定し、その検証に必要なデータを生成することが可能となる研究方法の検討を行い、研究計画書を立案することを指導する。</p> <p>(2 田口 豊恵) クリティカルな状態にある患者へのサーカディアンリズムの調整を目的とした補完代替療法を用いた教育実践プログラムの開発に向けて、研究課題を明確にするための文献レビューを行い、研究疑問、研究目的、研究デザイン等の研究方法の検討を経て、研究計画書作成のための教育指導を行う。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する文献検索、文献クリティーク、文献レビューの方法について指導し、フィールドの選定を行い、研究目的や研究方法について検討しながら、研究計画書の作成について指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題および批判的思考の育成の教育的支援について、またロイ適応看護理論に基づいた研究を概観する文献レビューあるいは概念分析を行い、研究課題を明確にし、研究計画書の作成に向けて教育指導する。</p> <p>(5 武井 麻子) 精神看護における現在抱えている問題意識を言語化し、テーマを決定できるように指導する。そのテーマに関連する先行研究や文献などをレビューし、研究テーマと研究方法について検討し、研究計画書を作成できるように指導する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健に関して量的研究における概念の尺度化のために必要とされる文献検討と概念分析の方法、および量的研究における研究目的、研究疑問および研究デザインとの関係について教育し、とくに尺度構成法における統計学的信頼性と妥当性について教育し、科学的エビデンスのある研究を行うための研究計画書を作成できるように指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健における文献レビューのプロセス（課題設定、文献検索、内容検討、文献統合、論文執筆）を指導する。研究疑問を洗練するために、テーマを俯瞰できる樹形図、関連図法、研究デザインに有用なフレームワークを教育し、研究計画書の作成を指導する。</p>
---	------------------	--

研究科目	看護学特別研究 I	<p>(8 磯邊 厚子) 国際看護学の観点から途上国の女性と子どもの健康課題について、幅広く情報収集、文献レビューを行い、研究テーマに関わる概念を学際的、批判的に検討、明確化し、エビデンスに基づく研究計画書の作成を指導する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育や臨床看護管理における倫理的課題について、国内外の文献をシステマティックにレビューし、研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画書作成を指導する。</p> <p>(10 井上 深幸) 高齢者の健康生活について、地域における認知症高齢者支援の国内外の文献レビューをおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、研究方法について検討し、研究計画書の作成を教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための評価ツール・尺度開発、特に、健康な地域づくりを目指す住民組織の育成と活動支援方法に関するテーマを中心に、学生が自らの研究課題を明確にし、研究計画書を作成できるよう指導する。</p> <p>(13 河田 志帆) 健康づくりを推進する地域保健活動の視点から、国内外の文献レビュー、概念分析、評価方法や介入方法、とりわけ個人や集団の保健行動に関する知見や動向を考察し、学生が自らの研究課題を明確にし、その解決に向けた研究計画書の作成に向けて指導する。</p>	
	看護学特別研究 II	<p>(概要) 共通科目や各専門科目、「看護学特別研究 I」で取り組んできた内容を発展させ、研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。研究成果を創出するプロセスをとおして、教育研究者に必要な研究能力を育成する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理に関する研究計画に基づいて、データの収集と解析を行い、仮説検証の論拠となる結果をまとめ、考察につなげて中間発表のための資料作成やプレゼンテーション等について指導する。</p> <p>(2 田口 豊恵) 研究計画に基づいて、クリティカルケアの場におけるデータ収集およびデータ分析を行い、得られた成果を多角的視点から考察し、中間発表に取り組めるよう教育指導する。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する研究計画に基づいて、データ収集、分析を行い、結果についてディスカッションし、中間発表に取り組めるよう教育指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題解決、批判的思考の育成およびロイ適応看護理論に関する研究計画に基づいて、データ収集およびデータ分析を行い、得られた成果を多角的に考察し、中間発表に取り組めるように教育指導する。</p>	

研究 科 目	看護学特別研究 II	<p>(5 武井 麻子) 精神看護に関連する研究計画に基づき、データ収集を行いデータ分析し、その結果について考察を加え、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健学の視点から途上国などの健康問題について異文化理解を通して、研究目的に対応した質問紙を作成し、現地調査による科学的なデータ収集を実施できるように指導する。得られたデータに対して推測統計学を中心とする量的データの解析方法を行えるように指導し、分析結果とその適切な解釈を通して中間発表できるように教育指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健に関連する研究計画に基づき、データ収集を行い最適な分析手法を選択し、データ分析の結果に考察を加え、中間発表に取り組めるように指導する。</p> <p>(8 磯邊 厚子) 国際看護学の観点から途上国の女性と子どもの健康課題に関連する研究計画に基づいてフィールド調査を実施し、統計学的に分析し、エビデンスに基づいて研究をまとめ、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育や臨床看護管理における倫理的な課題またはそれから派生する課題に関する研究計画に基づいて、データ収集と分析を行い、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(10 井上 深幸) 高齢者の健康生活に関する研究計画に基づいたデータの収集及び得られたデータの分析を行い、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための住民組織の育成と活動支援方法に関するテーマを中心に、研究計画に基づいてデータの収集と分析、考察を行い、中間発表に取り組めるように指導する。</p> <p>(13 河田 志帆) 地域保健活動、とりわけ個人や集団の保健行動に関する研究計画に基づいて、データ収集および分析を行い、結果に考察を加え中間発表に向けた指導を行う。</p>	
--------------	---------------	--	--

研究 科 目	看護学特別研究 Ⅲ	<p>(概要) 博士論文の作成に向けて、看護学特別研究Ⅱで得られた成果を推敲し、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。また、博士論文をまとめ、論文審査および発表のプロセスをとおして創造的に自立した研究活動を行い、エビデンスに基づいた看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理上の問題を根拠に基づいて解決し、人々の健康に寄与する考察を論理的に記述し展開することができるように博士論文の作成を指導し、自立して研究を行うことができ、看護教育を担い、看護学の発展に貢献する能力を育成する。</p> <p>(2 田口 豊恵) 看護学特別研究Ⅱで得られた成果を基に考察を重ね、クリティカルケアとサーカディアンリズムの調整を目的とした補完代替療法の教育実践プログラムの開発に向けて創造的に論文作成を教育指導する。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する、フィールドワークで得られたデータの分析結果を推敲し、エビデンスに基づいた博士論文の作成を通じて看護教育・研究者としての資質と能力を育成し、看護学と社会に貢献できるように指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題や批判的思考の育成およびロイ看護理論について、研究成果を推敲し、創造的に学位論文作成およびプロセスをとおして、国内外に発信できる教育研究者としての資質と能力を育成するように教育指導する。</p> <p>(5 武井 麻子) 精神看護学研究に関する成果を推敲し、独創的な博士論文の作成を指導し、自立して研究を行うプロセスを通して、看護学の発展に貢献する能力を育成する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健学の研究成果について、統計学的有意性による適切な解釈を行い、文献的考察を通して科学的なエビデンスをもたらす研究論文となるように推敲し、論文審査や学術論文としての発表に必要な資料作成が自立してできるように教育指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健学に関する研究の結果を推敲し、学術的および独創的な博士論文の作成プロセスを通して、地域保健学の発展に貢献する能力を育成する。</p> <p>(8 磯邊 厚子) 途上国の女性と子どもの健康課題について、独創的な博士論文の作成を指導する。さらに論文作成を通じて国際看護学の発展に寄与する教育研究者を育成する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育、臨床看護管理における倫理的課題やそれに派生した課題について、中間発表の成果を推敲し、博士論文の作成とそのプロセスを通じて教育研究者を育成する。</p>
--------------	--------------	---

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>	<p>看護学特別研究 Ⅲ</p>	<p>(10 井上 深幸) 高齢者の地域における健康生活に関する看護学特別研究Ⅱで得られたデータの分析や考察の推敲を行い、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための研究成果を推敲し論文作成を行い、そのプロセスを通して地域保健学の発展に寄与できる自立した教育研究者を育成する。</p> <p>(13 河田 志帆) 地域保健活動に関する看護学特別研究Ⅱで得られた研究結果を推敲し、博士論文の作成を通じて地域保健学の発展に寄与する自立した研究活動ができるよう教育指導する。</p>	
--	----------------------	---	--

学校法人京都育英館 設置認可にかかわる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
京都看護大学 看護学部				京都看護大学 看護学部				
		3年次				3年次		
看護学科	100	—	400	看護学科	100	—	400	
計	100	—	400	計	100	—	400	
京都看護大学大学院 看護学研究科				京都看護大学大学院 看護学研究科				
看護学専攻(M)	7	—	14	看護学専攻(M)	7	—	14	課程変更(届出)
				看護学専攻(D)	3	—	9	課程変更(認可申請)
計	7	—	14	計	10	—	23	
北洋大学 国際文化学部				北洋大学 国際文化学部				
キャリア創造学科	75	—	300	キャリア創造学科	75	—	300	
計	75	—	300	計	75	—	300	